

日本人中国語学習者を対象とした語素教学法の現状と課題^{1,2} —語素の選別を考える—

阿部 慎太郎

1. はじめに

中国語を第二外国語として学ぶものにとって、一般的な日常生活の場面で必要最低限の語彙量を身につけることが当面の目標であるが、語彙量に関する先行研究や、既存する語彙リストから判断する限り、使用頻度の高い8000語レベル相当の語彙量を身につけるのが妥当であろう。しかし、単純に毎日3語習得したとしても、7、8年かかる計算である。これは、日本の高校、大学における中国語教育の現状³では、到底間に合わない数である。こうした状況の中、呂(1999)、沈(2002)、輿水(2005)らは、今日の中国語語彙教育には、「限られた時間の中で、いかに効率よく語彙量を増やせるか」という、いわゆる中国語で言う“举一反三”(一を聞いて十を知る)の考えが重要であると指摘する。

そこで、本研究では近年中国国内を中心に議論されている語素教学法という考えに注目した。語素教学法とは、例えば二字漢語⁴の場合、従来の語彙学習は「語」の単位で意味を教えているが、この語素教学法の考えは、語に含まれる語素の意味を指導することで語素が核となり、そこから派生して複数の語の学習に役立つという考えである。この考えは、「限られた時間の中で、いかに効率よく語彙量を増やせるか」という中国語語彙教育に課せられた問題の重要な鍵を握ると考えている。また、この語素教学法は、日本人中国語学習者に見られる語素を手がかりとした未知語の推測と大きな関係がある。これまで、語素教学法と推測との関係性はあまり指摘されてこなかったので、一度この問題も考えてみたい。

語素教学法はまだ未完成の研究分野であり、様々な問題や課題を抱えている。また、研究の中心は、中国国内における対外漢語教育としての位置づけによるもので、学習対象者も日本人特有の問題は考慮されていない。よって、これまでの研究成果では日本人を対象にした場合にいくつか合致しない部分が生じる。そこで、本研究ではまず語素教学法研究の現状と課題点を整理することから始める。さらに、今回は語素教学法を考える上で重要な条件の一つである指導語素の選別(どの語素を教えるか)という問題に焦点を絞って、語素教学法を考えてみたい。

2. 語素教学法

2.1. 語素 (Morpheme) とは

「漢字は、『字』であり、『語』であり、ときには『語素』にもなる」。なぞなぞのようだが、例えば<空>という漢字で考えてみよう。<空>は字であると同時に、「私は、<空>を見上げた。」のように、意味を持ち、独立して使うことのできる語である。これは、漢字が表意文字または表語文字と言われるゆえんである。さらに、<空>は「空港」、「青空」など、語を構成する役割である語素にもなる。朱德熙 (1982:9) では、語素を“最小的有意义的语言成分” (最小の意味を持つ言語成分) と定義している。漢語の大部分は、一語素は一字漢語の関係にある。しかし、例えば“蜘蛛” (クモ) のように、“蜘”と“蛛”には意味を持たず、“蜘蛛”でようやく意味を持つ単位となるため、“蜘蛛”が一つの語素となる。この他に、“可乐” (コーラ)、“巧克力” (チョコレート) など、一つの語素が二字漢語以上となるものはいくつかあるが、朱氏も指摘するように漢語においてこのようなタイプはわずかである。そこで、本研究においても語素を一字漢語として定義することを断っておきたい。

2.2. 語素教学法の基本理念

吕文华 (1999) は、《对外汉语教学语法体系研究》〈建立语素教学的构想〉において語素教学法という考えを提案した。吕氏の考える語素教学法の基本理念をまとめると、従来のように語の単位で意味を提示、指導するだけでなく、そこに含まれる語素の意味、または語素と語の意味の構造や関係性を提示、指導することで、語の習得が深まり、また習得した語素が核となり関連する語を効率よく習得できるというものである。以下、ひとつの提示方法を抜粋する。

吕文华 (1999:85) の語素提示例 (【 】は筆者訳)

谦虚 (形) qiānxū

谦 (素) 谦让、不自满。【遠慮して譲る、自慢しない。】

虚 (素) 不自以为是、不自高自大。【高慢でない、おごり高ぶらない。】

卑 (素) 低下。【低い】

谦虚 (词义) 【語義】 = 结构义 (联合式) 【構造義 (連合式)】 + 语素义 (谦让、不自大) 【語素義 (遠慮して譲る、横柄でない)】

谦卑 (词义) 【語義】 = 结构义 (联合式) 【構造義 (連合式)】 + 语素义 (谦让、把自己看得很低) 【語素義 (遠慮して譲る、自分を低く見る)】

“谦虚”という語の意味だけ教えるのではなく、語素“谦”、“卑”の意味を提示、指導することで、語素“谦”と“卑”を核に、“谦和、谦让、过谦、自谦”、“自卑、卑下、卑微、卑称”などの学習にも役立つという考えである。さらに、呂氏は中国語学習者にとって、上記の例で言う“谦虚”と“谦卑”の意味の違いや使い分けは困難であるが、語素の意味を知ることによって理解に繋がりがやすいとも指摘している。このように、語素教学法には大きく二つのアプローチの可能性があるとと言える。

2.3. 語素教学法研究の現状

呂氏の考える語素教学法は、非常に興味深い内容であるが、〈建立語素教学的构想〉という題目からもわかる通り構想段階での報告である。さらにこれ以降、呂氏は語素教学法について大きく進展した研究報告はされていない。また、他の研究者からも語素教学法に関していくつか研究されてきたが、体系的に教授法として確立した研究は見地の限り存在しない。日本国内でも、同様の研究および教材は現段階では少ないが、奥水（2005）では日本における中国語語彙教育という立場から語素を指導する重要性を指摘している。また、荒川（2002、2003、2009）の日中語素比較研究の視点は、語素教学法を考える上で非常に興味深い内容であり、語彙教育に語素指導を取り入れようとする動きはある。

今日まで言語学の分野で、漢語における語素の重要性は、意味的、構造的視点から多くの研究者によって研究されてきた。そして、1990年代に入り、呂氏の〈建立語素教学的构想〉を皮切りに、第二言語習得における語彙教育的側面から語素教学法という分野を確立しようという動きが起こった。しかし、実際は語素教学法と呼べる段階まで達しておらず、これまでの言語学的アプローチと大差のない状態で、今後更なる研究が求められている。語素指導法に必要な条件は、下記5.1以降で詳しく考えていく。

3. 日本人中国語学習者にみられる語素を手がかりとした語意推測⁵

3.1. 語意推測

一般的な成人の母語話者は何万もの語彙量があると言われるが、それでもなお日々未知語に出くわし、日々語彙を習得している。先日、インターネットニュースで「映画『○○』ついに撮入」という見出しがあった。この文から、「撮入」とは「クランクイン」という意味であることはわかるが、普段は使わない語彙である。また、この見出しに関連リンクが貼られていて、そこには「映画『○○』無事撮了」という見出しがあった。これも、「クランクアウト」の意味であることはわかる。しかし、よく考えるとこれまで一度も「撮入」、「撮了」という語の意味を調べた記憶はない。なお、『広辞苑』（第六版）に「撮入」、「撮了」という語は載っていなかった。このように、未知語に対して様々な手がかりを

使って意味を推測する語意推測は、決して珍しいことではない。推測とは一見語彙習得とは相反するように思えるが一つの学習方略と言える。ネーション (2005:270) では、「言語アイテムの直接的勉強は総学習プログラムの25%以上を占めることはない」と指摘するように、付随的学習 (incidental learning)⁶ による習得の割合は大きい。

3.2. 語素を推測の手がかりとして

学習者はテキスト内で未知語に出くわした際、なにかしらの手がかりを使って未知語の意味を推測しようとする。「語素」、「品詞」、「コロケーション」、「前後の文脈」、さらには「背景知識」や (第二言語習得では) 「母語知識」など、手がかりには様々な要因が考えられ、これら複数の手がかりを組み合わせることで意味を推測している。では、日本人中国語学習者が中国語の未知語を推測する際、どのような手がかりを使っているだろうか。さきほどの「撮入」の例であるが、この意味を推測するために筆者も複数の手がかりを使用した。まず、「映画『○○』ついに撮入」という文から、未知語が「映画に関する語彙」であることがわかる。また、「ついに」という言葉からおそらく動詞的用法がくると予測できる。そして、もう一つが本研究のポイントとなる「語素」である。「撮入」の語素「撮」と「入」を見て、「撮影」に「入る」から「クランクイン」という意味を推測した。「撮了」も同様に、「撮影」+「完了 or 終了」から「クランクアウト」と推測できる。実はこのように、語素が推測の重要な手がかりとなるのは、先述したように表意文字である漢語では重要な手がかりの一つである。語素を手がかりとした推測は、日本人は母語の語彙習得において身に付いたもので、ある意味無意識で行っている行動といってもよい。この語素を手がかりとした推測という方略は、中国語学習時にも見られる。しかし、ここで問題になるのが、中国語を推測する際に日本語の漢字知識が関与するという点である。これは、下記4. 実験で詳しく考えていきたい。

このように、語素の意味がかりに未知語の意味を推測しようとする方法は、語素と語の結びつきが強い漢語にとって、大きな手がかりとなることがある。また、推測には様々な要因や、さらには母語知識も大きく関係してくる。このように、語素教学法と語意推測は大きな関係がある。語意推測の問題は、語素教学法研究においてあまり取り上げられてこなかったが、軽視できない重要な問題であると考えられる。

3.3. 日中同形語⁷と日中非同形語の認識、推測の手がかりの違い

日本人は、中国語の二字漢語を推測する際、日中同形語と日中非同形語で推測の手がかりや方法が大きく異なる。筆者が担当する一年次の中国語クラス⁸では、毎年一、二回目の授業時に、日中間の字体、字義の相違や、中国語における外来語の扱い方などを学ぶた

めに、次のような中国語の意味当てクイズをおこなっている。ちなみに、学生にはこの中国語を見て白紙で出さずに何でも良いから意味を書くよう指示をしている。では、ある学生の答えを例に解説していきたい。

表 2. 日本人中国語学習者の解答例

問題	解答
(a) “足球” (サッカー)	○サッカー
(b) “日本” (日本)	○日本
(c) “睡觉” (寝る)	×目が覚める
(d) “手表” (腕時計)	×手のひら
(e) “爱人” (配偶者)	×不倫相手

周知の通り、中国語には、“日本”「日本 (にほん)」、 “爱人”「愛人 (あいじん)」のような日中同形語と、“足球”「*足球」、 “睡觉”「*睡觉」、 “手表”「*手表」などの日中非同形語が存在する。また、日中同形語には、“日本”「日本」のように意味も同じ「同義語」と、“爱人”「愛人」(中国語では、「配偶者」の意味)のように、日中で意味が異なる「異義語」が存在する。さて、上記のようなクイズを行った後、この学生に「なぜこのような答えを書いたのか」、その理由を尋ねたところ、次のように考えたと言う。

表 3. 日本人中国語学習者の推測過程例

問題	推測過程	解答
(a) “足球” (サッカー)	「足」を使う「球技」	○サッカー
(b) “日本” (日本)	「日本」	○日本
(c) “睡觉” (寝る)	「睡眠」が「覚める」	×目が覚める
(d) “手表” (腕時計)	「手」の「おもて側」	×手のひら
(e) “爱人” (配偶者)	「愛人」	×不倫相手

“足球”は、「足を使う球技?」と語素“足”と“球”の意味を手がかりに、しかも日本語の知識を使って推測していた。同様に、語素を手がかりに推測したのは、“睡觉”と“手表”である。これらの共通点は、日中非同形語ということになる。

一方、“日本”、“爱人”の日中同形語はどうだろうか。この学生の答えからもわかるように、日本人が中国語“日本”、“爱人”という語を見て、「『日』の『人』?」、「『愛』する

『人』と頭の中で語素に分解して考えるだろうか。日本人であれば、“日本”、“爱人”という語をみると、すぐに日本語の「日本」、「愛人」として認識するだろう。そして、上記の学生のように“日本”「日本」は同義であるため正解となるが、“爱人”「愛人」は、日中間で意味が異なるため間違いに繋がったのである。非漢字圏の学習者にとっては、“足球”、“睡覺”、“手表”、“日本”、“爱人”は、全て「二つの字で構成された語」として認識するだけであって、非漢字圏の学習者を対象とした語素教学法の場合は、これら全てを同じ対象として扱ってもかまわない。実際、呂（1999）の場合、対象者は対外漢語教学という位置づけであって、日中同形語と非同形語の区別なく扱っている。しかし、日本人にとって日中同形語を語素に分解して考えることは不自然な方法なのである。要するに、日本人にとって日中同形語は、語素教学法の対象となりにくい。ちなみに、日中同形語に関しては、これまでの日中同形語研究で行われているように、語の単位で日本語の意味と比較しながら理解するのが効果的であろう。では、実際に日中同形語と非同形語は日本語と中国語の間でどのくらい存在するのだろうか。この判断は対象とする辞書によって異なるが、今回は下記の辞書及び語彙リストに限定して調査した。

表 4. 本研究における日中同形語、非同形語の判断基準、材料

	辞書及び語彙リスト	設定
中国語	<汉语水平词汇与汉字级大纲>の二字漢語 甲級 551 語、乙級 1376 語、計 1927 語	初～中級段階の 目標学習語彙
日本語	・「新選国語辞典第九版」(約 9 万語)	日本語母語話者の 漢字知識

中国語の語彙は、中国語初級から中級学習者を念頭において、<汉语水平词汇与汉字级大纲>甲、乙級の計 1927 語を対象とした。次に、日本語の範囲であるが、これも辞書によって大きく判断が異なる。このような日中同形語問題を考える場合、中型、または大型辞書を使用するのが一般的であるが、今回は高校、大学での学習者ということを考えて、あえて約 9 万語収録の『新選国語辞典 第九版』を日本語の判断基準とした。なお、本研究における日中同形語、非同形語の判断は全て『新選国語辞典 第九版』に従い、この見出しに収録されていない語は、全て日中非同形語として判断した。結果、1927 語中 1206 語（約 63%）が日中同形語、721 語（約 37%）が日中非同形語と判断した。日本人を対象とした語意推測、または語素教学法を考える際は、原則として日中非同形語が対象となることは念頭においておく必要があるだろう。

4. 日本人中国語初級学習者の「語意推測」方略を探る

4.1. 調査目的、方法

表3の例をもう一度見てほしい。

表3. 日本人中国語学習者の推測過程例

問題	推測過程	解答
(a) “足球” (サッカー)	「足」を使う「球技」	○サッカー
(b) “日本” (日本)	「日本」	○日本
(c) “睡觉” (寝る)	「睡眠」が「覚める」	×目が覚める
(d) “手表” (腕時計)	「手」の「おもて側」	×手のひら
(e) “爱人” (配偶者)	「愛人」	×不倫相手

上記のような語素を手がかりとした推測は、語の構造や日中の意味からある程度学習者の取る推測は予測できる。しかし、実際に学生の答えを見ているとしばしば想定外の推測過程や答えを目にすることがある。このように、生の学生の視点から考えると少し違った問題点が見えてくることがある。指導側は、学生全ての事例を把握することはできないが、できるだけ多くの問題と特徴を把握することで、語素教学法のヒントになると考える。そこで、2012年4月に下記の条件を満たす155名を対象に未知語の推測調査をおこなった。

1. 中国語を第二外国語として履修する大学生⁹
2. 中国語学習歴なし（4月に調査）
3. 日本語母語話者
4. 調査対象語彙が未知語である者

また、今回は初級段階の学習語彙から以下の23語を対象に調査を行った。

調査対象語彙23語

足球、操场、留念、年级、睡觉、生日、医生、面包、午饭、火车、手表、美国、飞机、电脑、限制、负责、介绍、热狗、汽车、手纸、卡拉OK、七龙珠、意大利

被験者にはこれら語をみて意味を推測し、答えのみを解答するよう指示した。また、被

験者には、事前に以下の点に注意するよう口頭で指示した。

1. 全てまだ学習していない中国語である（わからなくて当然）
2. 漢字を見て何かしらの答えを書く
3. 時間切れの場合を除き、できるかぎり白紙で出さない
4. もし中国語の意味を知っている場合、問題番号に○をつける

できるだけ未記入をさけるため、途中机間巡視し、未記入者には何かしらの解答を書くよう指示をしていたが、それでも解答が出てこない場合は「未記入」としてカウントした。また、今回の調査目的から、日中の字体差は考えないものとする。そのため、日中間で字体差が大きく、同形と認識できない可能性のある字に関しては、問題用紙に日本漢字の字体を「」で提示した。（例）“操场”「操场」、 “睡觉”「睡觉」、など。

本調査の目的は、日本人初級学習者の推測行動、及び語素または日本語母語知識を手がかりとした推測方略の傾向を把握することにある。なお、今回の調査は文脈の中で未知語を提示するのではなく、あえて語彙のみで提示した。理由は、語彙だけを提示することで極力語素以外の手がかりの干渉を防ぐためである。

今回の調査及び分析方法であるが、本来詳細に学生の推測過程を考察するには、例えば頭の中の推測過程を全て文字に起こす方法か、もしくは被験者にインタビュー調査によって推測過程をそのまま口に出してもらう方法などがある。阿部（2004）では、20名程度の学習者を対象に、答えだけでなく頭の中で考えている推測過程を被験者にそのまま書かせるという方法で調査をした。しかし、こうした方法による調査には事前に被験者に対して十分な説明が必要であり、もし説明が不十分であると望ましい結果が出ないという危険があるため、被験者の数も限られてくる。一方、今回の調査方法では、被験者の解答結果から推測過程を独自に調査するため、被験者がどのような手がかりを使って推測したかを詳しく探ることはできない。しかし、被験者への負担は少なく、且つ思いついた答えをそのまま解答できるという利点もある。そこで、今回の調査目的から考えて、量的研究による調査方法を採用した。

4.2. 調査結果

今回は紙幅の関係上、実験語彙の中から本研究の対象となる日中非同形語の二字漢語から“足球、生日、医生、睡觉、操场、留念”に絞って考察してみたい。

4.2.1. “足球”「サッカー」

表5.“足球”「サッカー」の解答結果（有効解答数 152 名／無効解答・未記入数 3 名）

サッカー	145	肉球	4	足の裏	1
指	1	かかと	1	無効解答・未記入	3

“足球”は有効解答 152 名中 145 名が正しい「サッカー」という意味を推測できた。日本語には「*足球」という語は存在しないが、語素“足”と“球”はともに日本語に存在する。正しい意味に推測できた者は、“足球”を頭の中で語素“足”と“球”にわけて、「足を使った「球（球技）」から、「サッカー」と推測した可能性が高い。また、間違った推測として「肉球」と答えた者が 4 名、「足の裏」、「指」、「かかと」がそれぞれ 1 名ずついた。「肉球」、「足の裏」、「指」、「かかと」という答えだけを見ると意味が大きく異なるが、おそらくどれも「足」と「球」という語素の意味を手がかりに推測したと考えられる。予想では、もう少し答えが分散すると考えていたが、このように、「足」と「球」という語素以外の手がかりがない状態で、大半が「サッカー」という意味を想像したのも注目すべき結果である。

4.2.2. “生日”「誕生日」

表6.“生日”「誕生日」の解答結果（有効解答数 154 名／無効解答・未記入数 1 名）

誕生日	130	生年月日	11	太陽	1
朝日	1	その他	11	無効解答・未記入	1

“生日”「誕生日」は、有効解答 154 名中 130 名が正しい意味へと推測できた。また、「生年月日」と答えた者が 11 名いたが、“生”と“日”から「生年月日」と推測してもおかしくはない。これは、日本人が間違いやすい答えと考えて良い。他にも、「太陽」、「朝日」と答えた者は、“日”を「sun」の意味で推測した結果、間違った推測に繋がったと考えられる。

4.2.3. “医生”「医者」

表7.“医生”「医者」の解答結果（有効解答数146名／無効解答・未記入数9名）

医者、医師	109	医大生	20	病院	5
医大	2	医療	1	医者の子	1
医者の人生	1	患者	1	その他	6
無効解答・未記入	9				

“医生”については、正しい意味の「医者、医師」と推測したものは109名いた。しかし、「医大生」という解答が20名おり、「生」を「学生」の「生」と認識した結果であろう。日本人にとって「～生」は、「学生」の意味でイメージされやすいという特徴があるのかもしれない。なお、「生」「生」という字は、読み・意味項目が多く、推測には注意のいる語素である。ちなみに、『常用漢字表¹⁰』には、音読みは「セイ、ショウ」、訓読みは「いきる、いかす、いける、うまれる、うむ、おう、はえる、はやす、き、なま」の音訓12の読みがあり、『常用漢字表』内で最も音訓読みが多い字である。意味の面でも、「生死」、「生活」、「生産、派生」、「生徒、学生」、「生食、生野菜」など多義にわたる。

4.2.4. “睡觉”「寝る」

表8.“睡觉”「寝る」の解答結果（有効解答数141名／無効解答・未記入数14名）

睡眠、寝る、寝ること	68	夢	17	起きる、起床	14
目覚め、目覚める、目が覚める	12	目覚まし、目覚まし時計	9	眠たい、眠い	5
眠気	5	睡魔	2	爆睡	2
味覚	1	その他	15	無効解答・未記入	14

この語のポイントは“觉”にある。日本語の「覚」には、大きく次の3つの意味がある。

- ①「おぼえる」②「さめる」③「感覚（味覚、聴覚、視覚、など）」

このように、多義語の場合には当然個人によって推測が異なり、結果答えも大きく散けるのが特徴である。しかも、ポイントは中国語の“觉”がどれにも当てはまらないという点である。では、日本人は“觉”「覚」という字を見るとどの意味項目が頭に浮かび、さ

らに「睡」と組み合わせて語の意味を推測しているのだろうか。結果をみると、「睡眠、寝る、寝ること」と、正しい意味にアクセスできた者は68名いた。しかし、これは非常に奇妙なことである。日本語で「睡」と「覚」の上記のどの意味項目で推測しても、「寝る」という結果には繋がらない。そこで、数名に実験後推測過程を尋ねたところ、「睡」の字だけで「寝る」と答えたという。全員が同様の推測をしたとは断定できないが、このようなどちらか一方の語素のみを手がかりに推測するという行動は他の語でも見られた。これも、一つの学習方略として把握する必要があるだろう。一方、「睡眠、寝る、寝ること」12名、「起きる、起床」14名、「眠たい、眠い」5名、これらは、“覚”「覚」を「さめる」という意味で認識し、「睡眠」が「覚める」と推測したと考えられる。また、③「感覚（味覚、聴覚、視覚、など）」の意味考えたと予測できる「味覚」という答えも1名いた。

4.2.5. “操場”「グラウンド」

表9.“操場”「グラウンド」の解答結果（有効解答数124／無効解答・未記入数31）

グラウンド、運動場	16	体育館	11	体操、体操場	10
操縦、操縦席	9	操作	8	あげもの、天ぷら	5
工場	4	運転席	4	その他	57
無効解答・未記入	31				

“操場”（「グラウンド、運動場」の意味）は、正しい意味で推測できた者が少なかった。ここでは、“操”「操」が問題となる。日本語「操」の意味を『新選国語辞典』で見ると次のようにある。

- ①「あやつる、うごかす」：操業、操作、操縦、体操、など
- ②「みさお、心をしっかりとたもつ」：操行、操守、節操、貞操、など

結果をみると、日本人は「体操」か「操る、操作、操縦」のどちらかが浮かびやすいことが伺える。「体操」で推測した場合、「体操」の「場所」から「グラウンド、運動場」もしくは「体育館」となる。一方、「操る、操作」で推測した場合、「操る、操作する」＋「場所」から「操縦席、運転席」という推測に繋がっている。さらに、ここでの特徴は、解答結果からわかるように答えが広く分かれたという点も注目すべきである。「その他」とは、解答数が1つのものであるがここでは57あった。答えが分散する語は推測が困難な語と考えられ、注意が必要であろう。

4.2.6. “留念”「記念に残す」

表 10. “留念”「記念に残す」の解答結果（有効解答数 122 名／無効解答・未記入数 33 名）

留年	67	我慢	6	思い出	6
残念	4	注意	3	後悔	3
留学	3	留守	2	その他	18
無効解答・未記入	33				

この“留念”（「記念を残す」の意味）は、想定外の興味深い結果となった。“留”「留」は、結果からも多くは「とどめる」という意味で理解していることがわかる。注目すべきポイントは、“念”「念」である。「念」は日本語で考えると、「念じる」か「記念」の二つの意味が思い浮かぶだろう。実際、この“留念”の意味は「記念」という意味が浮かべば正しい意味に繋がる可能性が高くなるが、逆に「念じる」という意味が浮かぶと正しい意味へのアクセスは困難となる。実験前の予想では、「念じる」という意味が浮かび、「記念」の「念」と考える者は少ないのではないかと考えていた。結果、予想通り「記念」と考えた者は、「思い出」の 6 名であると考えられる。

問題は、122 名中 67 名が「留年」と答えた結果である。これは漢字の意味ではなく、音「りゅうねん」を推測の手掛かりとしたと考えて良い。推測の手がかりは漢字（語素）の意味が強いと考えていたが、このように音（同音）によって意味を推測する場合もあることがわかった。このように、実際に調査することで想定外の学習方略も見えてくる。

4.3. 調査のまとめ：語彙指導への応用

学習者の間違いや問題の傾向は、語構造や日中間における意味の差異の分析から、ある程度予測はたてられる。しかし、実際にこのように学習者の生の答えを見て、結果から少し深く過程を考えることで、これまで見えてこなかった問題点が浮き彫りになる。語素教学法研究には、特にこの後者の視点は重要な要素となると考える。今回は、いくつかの語に限定して調査を行ったが、今後も可能な限り一語でも多く生の学習者の問題点を把握していく必要があると考えている。

なお、今回は実験終了後、語彙指導の一環として日中間の字体、字義の差異や外来語についての指導をおこなった。被験者には、今回の調査の意図を被験者に説明し、同時に語素を手がかりとした推測方略の問題にも触れた。日本人は、母語の語彙習得においても語素を手がかりとした語意推測という方法は頻繁に使用しており、日本人にとっては半ば無意識的に使っている学習方略と言っても良い。そのため、語素と語の関係性を重視してい

る被験者は少なかった。これは、荒川氏の指摘とも関係してくる。

「“护照”がパスポートであることは誰でも知っている。しかし、これがなぜパスポートになるのか。“护”が「保護する」というのはわかる。では“照”とはなにか。すぐにピンとこないのは、この字の意味が日本の「照」にないからだ。(以下、省略)」(荒川 2009:41) より引用

通常、新出単語では、『“护照”(名)「パスポート」』と提示し、学習者は“护照”が「パスポート」だと覚える。学生の中でよほど研究熱心な学生は、上記のように「“护照”の“照”の意味は?」、「なぜ“护”と“照”で『パスポート』の意味になるのか?」と考えるかもしれないが、そのような学生はごく稀である。今回のように、語素教学法の前段階として、学習者に語素を手がかりとした推測方略の問題を考えさせるのも重要であると考える。

5. 日本人中国語学習者を対象とした語素教学法を考える

5.1. 語素教学法に必要な条件と要素

漢語語素研究は、語構造的要因、意味的要因など、これまで様々な角度から研究が行われてきたが、語素教学法ではこうした研究成果を元に、さらに次のような問題を想定した問題解決が必要であると考えられる。

1. 語素、語彙の選別
2. 提示時期
3. 提示方法
4. 指導方法

これらを総合的に考えることが語素教学法に必要な要素であり、どの要素が欠けても効果的な語素教学法は望めない。今回は紙幅の関係上、これらの問題の中で「語素、語彙の選別：何を教えるか」に絞り、いくつかの問題点を少し掘り下げて考えてみたい。常用される語素が3000近くある中で、全ての語素を教えることは不可能である。しかも、冒頭から度々述べているが、これが語彙教育となるとさらに時間の制限があり、どの語素を教えるかを選別することが語素教学法研究において重要な要素となる。これまでの語素教学法研究では、語素または語の選別の問題は非常に曖昧で詳しく考察されていない。特に、日本人学習者に限定した考察は少なく、本研究で詳しく考えていきたい。そもそも、語素

の選別を考える際、通常であれば教えるべき語素または語に重点を置かれがちであるが、語素教学に向かない語素または語を考えることも重要な語素の選別と言える。そこで、今回は特にこれまであまり指摘されなかった後者の視点から、以下3つの方法で「語素、語彙の選別」の問題点を指摘したい。

5.2. 日中同形語素¹¹の問題

日本人中国語学習者を対象とした語素教学法を考える際、日中非同形語が対象の条件となることは上記3.3説明した通りであるが、この日中非同形語をさらに深く見ていくと二字漢語に含まれる第一語素及び第二語素が日中同形であるかによって、大きく4つのタイプにわけることができる。なお、ここでは“生日”を例にすると、“生”を「第一語素」、「日」を「第二語素」とする。では、各タイプの特徴及び問題点を考えてみたい。

表 11. 日中同形語素のタイプ（日中非同形語 721 語を対象）

タイプ	二字漢語数 (%) ¹²	特徴	例
A	512 語 (71%)	第一、二語素とも日中同形	生日、足球、感到、留念
B	83 語 (12%)	第一語素は日中同形 第二語素は日中非同形	牛奶、小姐、恐怕、号码
C	93 語 (13%)	第一語素は日中非同形 第二語素は日中同形	啤酒、苹果、做客、艰巨
D	33 語 (5%)	第一、二語素とも日中非同形	垃圾、翅膀、胳膊、萝卜

まず、第一、第二語素とも日本語に存在する A タイプは、例えば“生日”のように、二字漢語“生日”[*生日]としては日本語に存在しない、いわゆる日中非同形語彙であるが、語素の単位で見ると、“生”[生]、“日”[日]ともに日本語に存在する。このタイプに属する日中非同形語は、上記のように語素の意味が手がかりとなるもので、全体の71%を占める。

次に、第一語素、または第二語素のどちらか一つは日本語で使われない日中非同形の語素が含まれる B または C タイプであるが、例えば“牛奶”で見ると、二字漢語“牛奶”は“生日”同様、日中非同形語となる。そこで、語素に“牛”と“奶”を見た場合、“牛”は日本語「牛」という字が存在するが、“奶”という字には日本語では使われない。そうになると、当然推測の手がかりは“牛”だけになるということである。二字漢語の構造から考えると、どちらか一つの語素の手がかりだけでは正しい意味に繋がる可能性は低くなると

同時に、間違っただけに繋がる危険性が高くなる。BとCタイプに該当する二字漢語は、全体の25%（Bタイプ12%、Cタイプ13%）を占める。

最後に、第一、第二語素とも日中非同形のDタイプであるが、“垃圾”のように“垃”、“圾”ともに日本語で使われない語素の場合、日本語の知識では二字漢語だけでなく語素からの手がかりも全くない状態である。偏旁からの手がかりを考えないものとするれば、これらは非漢字圏の学習者と同様の状態である。このタイプの語は、日本人にとって推測の出来ない語素として、予め把握しておく必要があるだろう。このDタイプは全体の13%で、721語中わずか33語であった。これらはまとめて提示、指導、学習が可能な数であろう。

このように、日本人を対象とした語意推測や語素教学法を考える際、日中同形語素の問題も考慮すべきである。特に全体の約3割を占めるB、C、Dタイプに関して、予め指導側は把握しておくことは重要である。これらの指導法に関しても、直接二字漢語として教えるのか、または新たな提示方法や指導法を考えるのか、今後検討の必要がある。

5.3. 使用頻度の問題

次に、使用頻度の視点から考えてみたい。どの語素を教えるか、という問題を考えるにあたり、語素の使用頻度は重要な判断基準の一つとなると考える。まず、二字漢語に含まれる語素数の問題を考えてみたい。例えば3000の二字漢語には、語素はその倍の6000である。これだけを見ると、語素を学習することは倍の時間がかかる計算になる。しかし、この数字は延べ数であって同じ語素が重複しているものもある。では、同じ語素をまとめて1とカウントした場合の、いわゆる語素の異なり数はどれくらいになるだろうか。今回、既存する中国語の語彙リスト《汉语水平词汇与汉字级大纲》の二字漢語6415語¹³を対象に語素の異なり数を調査した。その結果、6415語で語素の延べ数は倍の12830であるが、異なり数は2427であった。この結果は、言い換えると一つの語素が複数の語で使われているものがあるということである。このように、語素には二字漢語の中で何度も出現するものもあれば、たった一つの二字漢語にでしか使われないものもある。もちろん、一概に使用頻度の多い語素が重要で、使用頻度の低い語素は重要ではないとは言いきれない。しかし、冒頭から述べている「効率よく語彙量を増やす」という面から考えると、やはり語素の使用頻度は重要な要素となる。また、少なくとも指導側はこの問題は把握しておく必要がある。では、使用頻度が高い語素はどのようなものか具体的にみていきたい。今回は、《汉语水平词汇级大纲》の二字漢語6415語を対象に調査するが、二字漢語の場合、第一語素または第二語素のどちらで出現するか、という問題も重要になってくる。そこで、今回は第一語素と第二語素それぞれの位置での使用頻度を調査した。

5.3.1. 第一語素における語素の使用頻度¹⁴

表 13. 第一語素での使用回数及び該当語素数¹⁵

使用回数	該当語素数
1 回	796 (42%)
2～9 回	962 (51%)
10～19 回	104 (6%)
20～29 回	15 (1%)
30 回以上	6 (0%)

二字漢語 6415 語中、第一語素における異なり語素数は 1883 字であった。この中で、6415 語中わずか 1 語にしか使用されない語素は 796 字で、全体の約 4 割を占める。

表 14. 使用頻度の高い第一語素

第一語素	使用回数	二字漢語例
不	56 回	不错 不但 不久 不如 不同 不要 不用
大	43 回	大概 大家 大声 大学 大夫 大街 大量
一	39 回	一般 一点 一定 一共 一会 一块 一起
公	31 回	公安 公布 公民 公顷 公式 公用 公报
分	31 回	分布 分割 分工 分解 分离 分裂 分泌
开	30 回	开办 开除 开动 开发 开饭 开口 开幕
人	29 回	人家 人间 人力 人群 人士 人体 人心
出	29 回	出差 出产 出动 出访 出境 出面 出名
上	28 回	上报 上层 上 上交 上进 上空 上任
发	28 回	发烧 发生 发现 发展 发表 发出 发达

一方、第一語素において使用頻度が最も高い語素は“不”で、56 語に使用されていた。次いで、“大”の 43 語、“一”の 39 語と続く。

5.3.2. 第二語素における語素の使用頻度

表 15. 第二語素での使用回数及び該当語素数

使用回数	該当語素数
1回	737 (43%)
2～9回	848 (49%)
10～19回	99 (6%)
20～29回	24 (1%)
30回以上	9 (1%)

続いて、第二語素で同様に調査した結果、異なり語素数は1717字で、6415語中わずか1語にしか使用されない語素は737字で、全体の約4割を占める。

表 16. 使用頻度の高い第二語素

第二語素	使用回数	二字漢語例
子	131	杯子 本子 儿子 孩子 饺子 橘子 桔子
人	46	爱人 别人 夫人 工人 病人 大人 敌人
力	44	努力 风力 精力 能力 用力 有力 吃力
心	40	点心 关心 安心 担心 放心 决心 耐心
动	37	激动 生动 推动 行动 自动 变动 调动
头	36	口头 里头 眉头 前头 拳头 外头 指头
行	34	进行 旅行 银行 不行 举行 实行 送行
面	33	方面 见面 北面 表面 地面 东面 对面
定	30	决定 一定 否定 规定 坚定 肯定 确定
用	29	不用 利用 使用 采用 费用 没用 耐用
会	29	机会 社会 晚会 宴会 一会 大会 工会
气	29	客气 空气 天气 力气 煤气 暖气 脾气

表16からもわかるように、第二語素の使用頻度上位には、“子”、“头”、“面”、など、接尾辞的用法で用いられる語素が多く見られる。第二語素で最も多く使われる語素は、“子”で131語に出現している。

5.3.3. 第一語素及び第二語素における語素の使用頻度¹⁶

最後に、第一語素、第二語素を合わせての出現回数の結果も報告する。

表 17. 第一語素及び第二語素での使用回数及び該当語素数

使用回数	該当語素数
1 回	831
2～9 回	1225
10～19 回	261
20～29 回	69
30～39 回	23
40 回以上	18

表 18. 第一語素、及び第二語素での使用頻度の高い語素

第一、二語素	使用回数	第一、二語素	使用回数	第一、二語素	使用回数
子	134	力	49	发	44
人	75	行	48	一	43
不	61	地	46	出	41
大	58	气	46	用、学	40
心	57	分	46	生、会、头	39
动	53	面、定	45	法、事	38

第一語素及び第二語素での使われ方を見ると、また違った問題も明らかになる。例えば、最も使用回数が多い 134 語で使用されている“子”は、第二語素で 131 語に使用されているが、第一語素としては“子弹”、“子弟”、“子孙”、の 3 語のみであった。

同様に“不”も 61 語で使われているが、第一語素として 56 語、第二語素としては“从不”、“毫不”、“要不”、“决不”、“岂不”の 5 語のみであった。このように、第一語素または第二語素のどちらかに集中して使用される語素もあれば、“地”、“发”、“出”、“法”のように、第一語素、第二語素において均に、高頻度で使用されている語素もあり、特にこのようなタイプは語素教学法において注目すべき語素と言える。

今後、さらに詳しく考察していく必要があるが、まず語素教学法での語素の選別という

視点から考えると、この調査結果を把握することは重要である。

5.4. 語素が手がかりとなりにくいタイプ

5.4.1. 擬音語、擬態語、感嘆詞、外来語（音訳）

“哎呀”、“哈哈”のような「擬音語、擬態語、感嘆詞」は、語素“哎”と“呀”、“哈”と“哈”の意味から語“哎呀”、“哈哈”に繋がっているわけではない。また、外来語（音訳）も同様である。先述したように、多くは一字漢語一語素の関係にあるが、“沙发”（ソファ）は、“沙”と“发”では意味をなさず、“沙发”で初めて意味を持つ単位であるため、“沙发”が一つの語素と考えるべきである。近年では、このタイプの音訳による外来語が数多く存在する。こうした語は、音を推測の手がかりになることがあるが、意味からは推測の手がかりにならないため、語素“沙”と“发”に分けて考えるのは効率的ではない。よって、学習者には、事前にこうした語はまとめて提示するか、指導時に注意を促す必要がある。

5.4.2. 品詞による判断

品詞からもある程度語素教学法に適するものと適さないものの選別は可能である。（中国語の場合）語素教学法で対象となる語は、基本的に動詞、名詞、形容詞が中心となる。一方、副詞、助動詞、介詞（＝前置詞）、接続詞などは、語素義と語義の関係性が低いものが多い。もちろん語素教学法の対象と成り得るものもあるが、これらは語の単位で意味を理解したほうが効果的ではないかと考える。

表 19. 語素教学に向かない品詞例

品詞	例
副詞	马上「すぐに」、然后「しかし」、也许「～かもしれない」、尤其「特に」
助動詞	应该「～すべきだ」、应当「～すべきだ」、能够「～できる」
介詞	自从「～以来」、由于「～なので」、按照「～に従って」
接続詞	因为「(原因)～なので」、所以「だから～」、不但「～だけでなく」、而且「しかも、さらに」

この他にも様々なタイプが考えられるが、このように「語素義+語素義=語義」の関係性が低く特殊なタイプをまず事前に把握することが語素教学法にとって重要な問題であり、この問題を軽視してしまうと、効果的な語素教学法にたどり着くことは難しいだろう。

また、このような語素または語に関しては、語素教学法とは別の提示、指導方法を考える必要があり、これは筆者の今後の課題としたい。

6. おわりに

実際の語彙教育には時間に限りがあり、全ての語素を指導することはできない。そのため、語素教学法研究には今回指摘したようにまず語素の選別を行う必要がある。本論で指摘した使用頻度の問題や、日本人学習者を対象にした場合に重要な日中同形語素の問題は語素の選別の一つの判断基準であり、今回の調査結果を指導者が把握しておくことで指導時の助けにもなると考える。語素の選別には、本論で提案した選別方法以外にも様々な要因が考えられる。今後はさらに一つでも多くの視点から語素の選別に関して考察していく必要がある。本研究では、特に日本人中国語学習者を対象とした語素教学法の可能性を指摘したが、これはまだほんの一考察にすぎない。現段階で語素教学法には様々な課題や問題点を抱えている。実際、漢語における語素の問題は非常に複雑であり、語素の選別、提示時期、提示方法などを誤ると、語素教学法はむしろ危険な指導法に成り得る危険性も含んでおり、諸刃の剣でもある。しかし、語素教学法は、大きな可能性を秘めているテーマであり、今後更なる研究が日本における中国語語彙教育にとって大きな役割を果たすと考えている。今後は、さらに様々な角度から語素教学法を考察していきたい。

注

- 1 本論文は2012年6月3日に神田外国語大学で行われた「中国語教育学会第10回全国大会／高等学校中国語教育研究会全国大会」での研究発表「日本人中国語初級学習者に見られる語素を手掛かりとした未知語の推測とその効果」を元に、加筆・修正したものである。
- 2 本研究で言う「日本人」とは、日本語を母語とする者と定義付ける。
- 3 日本の大学における第二外国語としての中国語履修状況は、1～2年間（1年1～2コマ）が一般的である。輿水（2005）で詳しく紹介されている。
- 4 「二字漢語」は、野村（1974、1975、1988）で使っている表現である。「二字漢語」とは、二つの漢字で構成されている語を指すが、漢語は原則一字一音節なので「二音節語」とほぼ同義と考えて良い。
- 5 「語意推測」は、森美子（2004）で使われた表現であり、未知語の意味を推測するという点から、本研究においても「語意推測」という言葉を使用する。
- 6 「単語カードを用いて語の意味を覚える」といった『意図的学習』（intentional

- learning) とは対照的に、さまざまな言語活動の副産物として未知の語に関する知識を獲得することを指す。」『応用言語学事典』(2006:553)
- 7 日中同形語の判断は、『新選国語辞典 第九版』の見出し語にある語を日中同形語、見出し語にない語を日中非同形語とする。また、中国の簡体字と日本の新字体による字体差は考えないものとする。(例) 中国語“语”と日本語「語」は日中同形と判断。
 - 8 中国語を専門としない第二外国語として履修する大学のクラスである。
 - 9 筆者が非常勤として勤める四大学で実施。
 - 10 『常用漢字表』(平成 22 年内閣告示第 2 号)を使用する。なお、今回の改訂で 1945 字から 2136 字となった。
 - 11 本節における日中同形語素及び日中非同形語素の判断は、『常用漢字表』(平成 22 年内閣告示第 2 号)の 2136 字を基準とし、『常用漢字表』に掲載されている字を「日中同形(語素)」、掲載されていない字を「日中非同形(語素)」と判断した。
 - 12 日中非同形語 721 語(3.3 参照)に占めるパーセンテージを表す。
 - 13 《汉语水平词汇与汉字级大纲》では二字漢語の数は明記されておらず、また一字漢語、二字漢語、三字漢語の判断基準は見解によって異なる恐れがある。6415 語は、本研究独自の判断基準によるものである。
 - 14 “爸爸”、“常常”、“弟弟”など、前後同じ語素で構成されている語は全 49 語。これらは、第一語素、第二語素それぞれ 1 回とカウントする。
 - 15 例えば、使用回数 1 回とは、6415 語の中で第一語素または第二語素のどちらか一方の語素として 1 語だけに出現する語素を指す。(例) 鍛 [锻炼]、鸡 [鸡蛋]、帽 [帽子]、など。
 - 16 注 14 の問題に関して、ここでは“爸爸”、“常常”、“弟弟”はそれぞれ使用回数を 1 回とカウントする。

参考文献

- I.S.P. ネーション著, 吉田晴世 / 三根浩訳 2005 『英語教師のためのポキャブラリーラーニング』松柏社
- 阿部慎太郎 2007 <日中非同形語的习得研究 - 以语素的意义分析和词汇推测为中心> 汉语汉文化论丛编辑委员会编辑《中日研究生国际论坛 2007 汉语汉文化论丛》pp.249-262. 白帝社
- 荒川清秀 2002 「日中漢語語基の比較」『国語学』第 53 卷 1 号 pp.84-96.
- 荒川清秀 2003 「中国語辞典における語素のあつかいについて」『文明 21』10 号 pp.49-59

- 荒川清秀 2009『中国語を歩く 辞書と街角の考現学』東方書店
- 金田一京助他編 2011『新選国語辞典』（第九版）小学館
- 小池生夫編集主幹 2006『応用言語学辞典』研究社
- 国家汉语水平考试委员会办公室考试中心 2011《汉语水平词汇与汉字级大纲》（修订本）经济科学出版社
- 輿水優 2005『中国語の教え方・学び方－中国語科教育法概説－』日本大学文理学部叢書
- 朱德熙 1982《语法讲义》商务印书馆
- 沈国威 2002「漢字形態素の類型と漢字・語彙教育」関西大学文学部中国語中国文学科編『文化事象としての中国』pp.377-396. 関西大学出版社
- 新村出編 1998『広辞苑』（第六版）岩波書店
- 中国社会科学院语言研究所词典编辑室編 2005《现代汉语词典 第5版》商务印书馆
- 野村雅昭 1974「三字漢語の構造」『電子計算機による国語研究Ⅵ』pp.37-62.
- 野村雅昭 1975「四字漢語の構造」『電子計算機による国語研究Ⅶ』pp.36-79.
- 野村雅昭 1988「漢字の造語力」佐藤喜代治編『漢字講座第1巻 漢字とは』pp.193-217. 明治書院
- 文化庁『常用漢字表』http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/pdf/jouyoukanjihyou_h22.pdf
- 森美子 2004「【講演録】語意推測方略の個人差」日本言語文化学会研究会増刊特別号編集委員会編集『第二言語習得・教育の研究最前線－2004年版－』pp.12-37. 日本言語文化学会
- 吕文华 1999《对外汉语教学语法体系研究》〈建立语素教学的构想〉pp.249-262. 北京语言文化大学出版社